

神奈川県立 生命の星・地球博物館  
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

# 友の会通信

129  
2025.09

Vol.29 No.2 通巻129号 2025年9月15日発行(年4回発行)



過去のイベント風景

記録的な暑さが続く中、いかがお過ごしでしょうか。

友の会では年度後半も色々講座を開催します。ぜひご参加ください。

また、この友の会では会員自らが講座等を企画することが大きな特徴です。

「こんなことを専門家に聞いてみたい」「こんな観察会をやりたい」などありましたら、ぜひ友の会を通して実現していただければ幸いです。

## 目次

|        |   |
|--------|---|
| 事務局より  | 2 |
| 情報クリップ | 2 |
| 活動報告   | 3 |
| 行事案内   | 9 |

## 事務局より

### 2025年度第3回友の会役員会の開催

2025年7月5日（土）に、今年度第3回の友の会役員会が開催されました。

まずは現在の会員数及び収支についての報告がありました。継続会員の方に一部変動がありましたが新たに14名の会員を迎えることができました。皆様のご協力のおかげで、会員数はおおむね昨年度並みを維持しております。

続いて次の総会及び総会イベントについて話し合われました。日程はいつものところ2026年4月26日（日）を予定しています。イベントとしては、酒井恒氏の酒井コレクションについての講演会を計画しています。日程や詳細な内容については、次回役員会にて決定する予定です。

講座については、地学グループが1月に予定していた「会員による活動報告会」改め、2本立ての企画として愛知大学の西本先生による「街角地質学～日本の近代化を支えた石材」及び「街中石材散歩 at 東京」を実施します。また、特別展「初三郎式、かながわの描き方―地形表現の科学―」は11月まで開催しています。この機会にぜひ博物館へ足をお運びください。

このように、2025年度後半も色々イベントを企画しています。ぜひ、ご参加ください。

### ●友の会運営のお手伝いを募集！

友の会では、運営のお手伝いをしていただける方を募集しています。資料の発送や会計事務、友の会通信の企画・作成、ブログ等での情報発信作業など、ご興味のある方はお気軽に事務局までご連絡ください。

（友の会事務局）

Tel:0465-21-1515、E-mail:kpmtomo@ybb.ne.jp



役員会風景

## 情報クリップ

友の会会員数：323名（8月1日現在）

正会員：320名／賛助会員：3名

### ●特別展「初三郎式、かながわの描き方―地形表現の科学―」のご案内



開催期間：2025年7月19日（土）～

11月9日（日）

吉田初三郎・作「神奈川県鳥瞰図」など大正から昭和初期に描かれた鳥瞰図は、名所旧跡の外観等を挿し絵で描くだけでなく、立地している地形を立体的に表現していることが見どころです。これらが生み出された時代背景を人文科学的、地形表現を自然科学的なアプローチで迫ります。

### ●博物館からのお知らせ

最新の情報は、博物館ウェブサイトや公式X（旧Twitter）でお知らせしますので、ご来館の際は必ず事前にご確認ください。

- ・ウェブサイト：<https://nh.kanagawa-museum.jp/>
- ・公式X：[@seimeinohoshiPR](#)
- ・混雑情報X：[@seimeinohoshiCI](#)

## 活動報告（植物グループ）

### ◆植物観察会「身近な植物観察入門」

2025年5月24日（土）／博物館周辺

／6名（スタッフ含む）／担当：植物グループ

今日の観察会は植物グループの担当4名を入れても総勢6名と最近になく少人数。参加者のお二人が毎回のように参加されている方だったこともあり、終始、植物好きの顔なじみのお仲間が集っているような雰囲気だった。

まず、博物館前庭にノアザミ。今の時季に咲いているアザミはまずノアザミだね、と皆で総苞の粘りを確認した。

と、そのそばにコモチマンネングサ。摘まみ上げるだけで葉腋にできたむかごがぼろぼろとこぼれる。丁度花期で黄色の花がきれいだが、「たね」は出来ないと図鑑に書いてある。むかごだけでも相当の子孫が増えるから、「たね」が出来なくても困らないのだろうが、ではこの花の役目は何だろう？と考えたけれど、宿題となる。

山神神社方面へ向かう。

サカキ（すでに鎌形の冬芽が出来ていた）、タラヨウ（分厚い、濃緑色の葉）、ミツマタ（皆、花は見知っているが今は若い果実）、シダのあれこれ、あちらこちらで立ち止まってはああでもない、こうでもないと言葉交わしながら植物談義に花が咲いた。

5月下旬の樹々を目にした皆の感想は「本当に花が少ない時期だね」で一致。サクラだ、ツツジだ、フジだと華やかだったのはちょっと前の事だったのに。

そのかわりに道端の小さな花が注目の的になった。

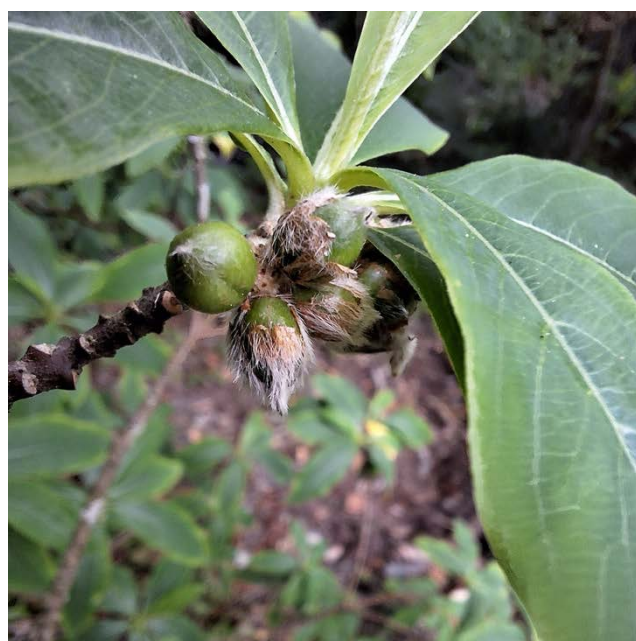
ヒナキキョウソウ（果実の小さな窓と種子に感心）、ヒメヨツバムグラ（ヒメの名にふさわしい姿だった）、ドクダミ（皆さん、花序の構造について熟知されていてお互いにいろいろ教え合った）等々。

いつも通りの楽しい2時間だった。

（植物グループ 田畑節子）



博物館前庭の一角に咲いたノアザミ



萼筒に包まれたミツマタの果実

### 「箱根、精進池～芦之湯へ」中止

2025年6月3日の植物観察会「箱根、精進池～芦之湯へ」は、雨天のため中止になりました。（友の会 植物グループ）

### 「大雄山、最乗寺のナベワリ」中止

2025年5月10日に予定しておりました植物観察会「大雄山 最乗寺のナベワリ」は雨天のため中止になりました。（友の会 植物グループ）

## 活動報告（生物間共生講演会）

### ◆第13回「植物と土を結ぶ菌根菌って何？」

2025年6月8日（日）／博物館講義室／69名／

齋藤雅典 氏（東北大学名誉教授）



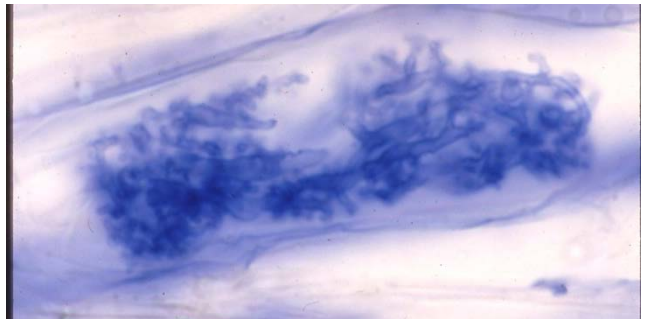
熱演中の齋藤先生

私はコケ植物と密接に関わる菌であるコケ植物生菌、その中でも特にコケチャワソウ類について研究をしている。この仲間は宿主との関係性こそ不明であるが、感染する際に宿主の細胞内にまるでアーバスキュラー菌根のような形態の菌糸を広げる。今回、本講演会に参加したのも改めて菌根について学ぶことで、このようなコケ植物生菌と宿主の関係性について何かヒントを得られるのではないかと考えたためである。

今回の勉強会に参加したことで、菌根菌の基礎について改めて学び直す良い機会となった。菌根と言っても、テングタケやマツタケ、ショウロなどが形成する外生菌根をはじめ、グロムスなどの菌類がさまざまな植物と形成するアーバスキュラー菌根、ラン菌根、ツツジ型菌根、内外性菌根などさまざまである。また、菌根というと一般的には共生のイメージが強いが、ギンリョウソウにみられるモノトロポイド菌根のように、ベニタケ類などの菌類から一方的に栄養を得る寄生に近い関係も存在し、改めて植物と菌類の相互作用に非常に興味を惹かれた。

午後の講義では、こうした菌根菌の応用について学ぶことができた。農林業や緑化への活用はよく知られているが、希少植物の保全にも応用されているという話には驚かされた。菌根菌が植物に及ぼす影響の大きさを、改めて実感した。

また、質疑応答の中で紹介された「植物の根の脱色法」も非常に興味深かった。これは水酸化カリウムで根を煮て色素を抜き、液を捨てては再加熱する



根の細胞に入り込んだアーバスキュル（樹枝状体）と呼ばれる菌根菌の菌糸



アーバスキュラー菌根菌ギガスポラの胞子

という操作を繰り返して根を脱色し、さらに希塩酸で植物組織を弱酸性にしたうえで、トリパンブルーや酸性フクシンで染色することで菌根の観察をしやすくするという方法である。使用する薬品を工夫すれば、家庭でも菌根染色ができるかもしれない。自宅の庭に生えている植物の根を脱色・染色して観察するのも面白そうである。

講演で紹介された齋藤先生の著書『菌根の世界』『もっと菌根の世界』は、本講演の内容をより深く学べる書籍として紹介されており、私も講演後に購入することができた。内容がとても充実しており、読むのが楽しみである。

最後に、菌類は分解者としての役割だけでなく、私たちには見えないところで、多様な生物と複雑かつ重要な関係を築いている。今回のテーマであった菌根菌はその代表的な例であり、普段は気づかないが私たちの身近な環境で生態系を支えている存在である。このような不思議さと面白さこそが、菌類の大きな魅力のひとつだと私は感じている。そうしたことを実感させてくれる本当に貴重な講演会であった。

（生命の星・地球博物館 外来研究員 細野 天智）

## 活動報告（サロン・ド・小田原）

### ◆第143回サロン・ド・小田原

「岩石の研究—顕微鏡から覗く岩石の世界」

2025年6月28日（土）／西側講義室／28名／  
夏目樹学芸員（当館学芸員）



話題提供者の夏目樹学芸員

今回のサロン・ド・小田原は143回目を数え、本館就任2年目を迎えた新進気鋭の夏目 樹学芸員に「岩石の研究」について話題提供をして頂くことになりました。

今回のお話会は、対象をオープンで開催し、参加者の半分近くが一般参加者であったことは嬉しかったです。これが友の会会員誘致の切っ掛けになると有難いことです。

さて、お話の内容ですが、岩石研究の基礎・基本から入りました。まず、「鉱物とは」地球やその外の天体で地質作用を経て、自然に生成したもので、約6,000種類もあるとのことでした。次に岩石の種類として、火成岩、堆積岩、変成岩があることなどが紹介されましたが、ここまでは中学校の理科の授業をまじめに受けていれば記憶に残っているところでした。



偏光顕微鏡で見た岩石プレパラートを投影して



薄片プレパラートを作るために貼られた岩石切片

次にそれらの岩石の判定方法として使われている岩石の薄片プレパラートの作り方とその薄片プレパラートの偏光顕微鏡写真の映像から、その岩石が何であるかの解説が投影装置を使ってなされました。

この0.03mmまで薄く研磨された岩石プレパラートの偏光顕微鏡（鉱物顕微鏡）の映像はとてもきれいで、初めて見ると、ちょっとした感動モノですが、この映像から鉱物の種類を同定するのは、素人には至難の業です。なにせこの偏光板による鉱物の干渉色は、鉱物の種類によって変わるだけでなく、その厚さや結晶の向きによっても変化するというので、とてもついていけません。



休憩時には鉱物顕微鏡での観察も

かなり難しい内容もありましたが、偏光板を2枚使って、偏光顕微鏡の原理を説明されたり、電磁波から入って可視光線、光の三原色、光の干渉色など丁寧な説明をしていただきました。

今回の話題のために、地学グループの学芸員、スタッフの積極的支援があったことも一言、感謝の気持ちを込めて伝えておきたいと思います。また、夏目学芸員の鉱物鑑定能力の高さには、感服いたしました。

丁寧な説明ときれいな鉱物の映像を見させていただきありがとうございました。（飯島俊幸）

## 活動報告（地学グループ）

### ◆地話懇話会「アクティブシニアの石材さんぽー神奈川の石切り場と石造物を訪ねてー」

2025年6月14日（土）14:00～15:30／西側講義室／50名／講師：田口公則氏（当館学芸員）

<オプション「小田原城の石」>

2025年6月14日（土）16:15～17:15／小田原城／20名／講師：山下学芸員／20名



講師の田口公則氏

今回の地話懇話会は一般の参加も募っていただいたことで、嬉しい機会となりました。講師の田口さんが冒頭で「石材はまだわからないことがいっぱいあります。現地に行って調べないとわかりませんし、全部の石を割るわけにはいかないので多くの石を観察して経験を積むしかありません。しかし個人で行動しても限りがあります。まずは石好きな仲間と一緒に見に行き楽しいことを発見したら共有しましょう！それがわからないことがわかるきっかけや新しい発見に繋がるかもしれません。」と話され、専門的なことを知らない私でも楽しめそうで安心しました。

神奈川県内にはその土地の名前が付いた石材がたくさんあり、石垣・石灯笼・石畳など昔から色々な形で使用されていて今でも街のあちこちに見ることができそれらの石材を採掘していた石切場が今でも観察できること、その中で講師の田口さんが出会った面白い場所をたくさんご紹介してくださいました。

- ① 伊勢原日向石・・・今回の案内チラシの写真の石切場で、矢穴やノミのあとが残っていて、当時の石工さんの営みを今も感じることができる魅力を感じました。
- ② 小田原久野石・・・かまどや七輪の素材として採石されていた石切場で、巨石の上部が大きく

ズレた状態で乗っているのを発見！なぜこんな形なのかと不思議に思い地域の方に聞き取りをすると、大正関東大地震の時にクルッと回転してズレたということがわかり驚き！しかし、最近見に行くと上部の石が無くなっていてそれを調べると、危ないからと地元の方が落としたそうです。現地で感じた不思議が歴史に繋がる面白いストーリーでした。

- ③ 大磯シンドーサキの石・・・台風のあと露出した石切場でそれまでは石切場と知られていない場所でしたが、スマホでの写真からフォトグラメトリという手法で合成して全体像がつかめ、石切場だとわかるようになったそうです。そして現代のデジタル技術の中で3Dスキャンやデジタル地図を誰でも簡単にできる活用方法を教えていただきました。



会場いっぱいの参加者

紹介いただいたお話に共通しているのは、石を知ることの面白さと、その背景にある土地の歴史や人々の営みを合わせ

て知ることにより面白さがアップすることです。そんな石材巡りを私もしたいと感じる時間でした。

さらに今回は講演の後にサプライズのオプションツアーが準備されていて、学芸員の山下さんによる「小田原城の石垣・石材めぐり」も行われました。本小松石と新小松石の違いや風祭石、早川石丁場の石などの石材の特徴や識別のコツを教えていただきながら石碑や石階段、石垣などを巡りました。

あいにくの雨模様でしたが全く気にならないほど楽しい時間でした。

最後に今回参加できた講演とオプションツアーで感じたことを仲間と共有し、面白い石材



小田原城で石の説明を聞く

たちに会える活動の輪を繋げていけたらと思います。またこのような講演会がありましたら参加してみたいです。（梶原友香）

◆地話懇話会特別バージョン「Live 中継！海洋底掘削コア保管庫に眠るレガシーコアから海洋地殻の成り立ちにせまる」

2025年6月20日（金）14:00～15:00／西側講義室／27名（館職員、スタッフ含む）

高知コアセンター側の研究者：針金由美子（産業技術総合研究所）、藤井昌和（国立極地研究所）、赤松祐哉（海洋研究開発機構）、吉田一貴（高エネルギー加速器研究機構）、久保雄介（海洋研究開発機構高知コア研究所）、加藤悠爾（高知大学海洋コア国際研究所）

進行サポート（大学院生）：松山和樹・奥脇健生（名古屋大学）、伊藤禎宏（広島大学）、三木悠登（新潟大学）

当館進行役：山下浩之、夏目 樹（当館学芸員）

平日の14時からの開催でしたが、予想外に参加者が多く、大盛況でした。

本イベントは、高知コアセンターと当館をオンラインで結んで、中継するという初めての試みでした。



高知コアセンターの研究者とライブ中継風景

高知コアセンターは、掘削船を用いて海洋底を掘削したボーリングコアを収蔵、研究するための施設で、太平洋の西部からインド洋にかけて掘削されたボーリングコアが収蔵されています。タイトルに「海洋底掘削コア保管庫に眠るレガシーコア」とあるのは、少し前（1990年頃）に、南西インド洋で掘削されたボーリングコアを、最新の知見と設備で再度研究材料として活用する企画だったために、このような題目となっています。

中継の内容は以下の通りです。

- ・高知コアセンター、プロジェクト説明、ラボ・作業等の紹介
- ・サンプリング台を囲んで岩石の説明や分配方法などを紹介



過去に掘削されたコアの分配作業を紹介（当館）

- ・岩石処理室でのカッターやドリルを用いた作業の紹介と実演
- ・顕微鏡観察室での作業の紹介
- ・X線CTやMSCL（マルチセンサーコアロガー）など岩石コア非破壊分析装置の紹介
- ・古地磁気実験室での作業の紹介
- ・コア保管庫の紹介
- ・参画研究者と来場者の交流

以上を、それぞれの部屋の説明を聞いた後で、参加者が質問をしていく形式で進行了ました。私は司会進行役だったのですが、皆さんが積極的に質問をしてくれたおかげで、大変助かりました。

個人的にはコア保管庫の紹介と、地震で破砕されたボーリングコアをはじめ、様々な堆積岩のボーリングコアを解説してもらったことが新鮮でした。



過去に掘削されたコアの分配作業を紹介（当館）



コア保管庫との中継風景

## 活動報告（よろずスタジオ）

### ◆「夏の虫探しの極意」

2025年6月29日（日）／博物館講義室／69名  
（大人36名、子ども33名）／協力：渡辺学芸員  
／スタッフ：4名

今回のタイムリーな企画に、多くの家族連れが会場を訪れました。

身近な昆虫の綺麗な標本の他に、神奈川県で昨年初採集されたシロアシクサレダマバチ、前日渡辺学芸員が山を駆け巡って捕まえて来てくれた、ノコギリクワガタやヒゲナガオトシブミ、ルイスオサムシ、見えるか見えないかの小さなマダニも展示され、参加者の興味を引きました。本物の虫たちを慣れた手つきで捕まえて眺める子供達の姿に、アナログ世界が生きているのを感じてスタッフはホッとしました。スクリーンを用いた15分の解説は、クイズや昆虫網の実演を交え、参加者にインパクトを与えました。用具や生態に関する質問も多く、渡辺学芸員は2時間、話しっぱなしの大奮闘でした。参加者の中に、小学3年生男子の豆昆虫博士がいて、「博物館には何度も通っていて、大いに利用している。小学生用の昆虫講座があるといいなあ」と話してくれました。小さい人達にも博物館が役に立っている実際に嬉しく思いました。友の会で小さい人向けの講座も企画できないかと思いました。

コロナ禍以来、地下駐車場からの動線のため、講義室前にフェンスが設けられ、エントランスからの見通しが悪くなっています。催し物開催の様子を来館者に見て頂けず、集客にマイナスに働いていると思われます。通常の感染症に指定された今も、フェンスの必要があるのかどうか、担当部署で検討して頂きたいと思います。（友の会 赤堀千里）



朝採れキノコも並べて



こんな長い網も使うよ



小さなマダニを親子で観察



ノコギリクワガタ可愛い！

## 行事案内

### ◆ 植物観察会 『身近な植物観察入門』

植物グループのスタッフと、博物館周辺の身近な植物を観察する、初心者中心の気楽で楽しい会です。会員以外の方も大歓迎です。

日 時：10月25日（土）

集 合：博物館正面 前庭 10：00

解 散：入生田駅近辺 12:00 頃

参加費：50 円（保険料）

講 師：友の会植物グループ

対 象：オープン・どなたでも

小学3年生以下は保護者同伴でお願いします  
持ち物：飲み物・雨具など

（お持ちの方は虫メガネ・ルーペ等の拡大鏡）

申込み：友の会の WEB フォームで

申し込み開始は友の会通信到着後から  
締め切りは下記電話の場合と同じ

\* メールを使わない方は電話でお申し込み  
ください。

10/20（月）～10/22（水）18時～21時  
山田 080-3394-5101 まで

問合せ：上記電話申込み担当者へ  
（18：00～21：00）

（博物館には問合せないで下さい）

雨天等で中止の場合は、申し込んだ方に担当者から  
電話またはメールで連絡いたします。



2024年10月観察会より サネカズラの果実

### ◆ 植物観察会「荒崎の海岸植物」

海岸植物を見にいきましょう！

荒崎は相模湾に面した風光明媚な海岸です。潮風の中でイソギク、ワダン、イガアザミなどを観察しましょう。

みなさまのご参加をお待ちしています。

実施日：11月11日（火） 雨天中止

場 所：横須賀市荒崎

集 合：京急三崎口駅改札 10時集合

（バスで三崎口駅 10：18→荒崎 10：42）

解 散：三崎口駅 15時頃

コース：荒崎公園内と周辺の海岸

（岩場を歩きますので、しっかりした履物でおい  
てください）

講 師：田中徳久氏 当館館長

対 象：オープン（どなたでも） 大人20名

参加費：会員500円 非会員700円

申込み：友の会の WEB フォームで10月28日

（火）までにお申し込み下さい。

メールアドレスがない方は10月26～28日の  
19～21時までに電話でお申し込み下さい。

電話申込み先：石橋 090-2159-4752

当日連絡先：石橋 同上

佐竹 090-2329-1324

※詳細は後日メール等でお知らせします。



イソギク

### ◆ 植物観察会「皇居東御苑の植物」

初冬の皇居東御苑の植物を訪ねます。トウカエデやイロハモミジの紅葉、コナラ、イチョウヤクロモジの黄葉、開花中のカモメギク（キクタニギク/アワコガネギク）、コウシンバラなどを見に行きましょう！二の丸雑木林は、開発で姿を消す武蔵野の雑木林をそのまま表土ごと移植しており、神々しい雰

困気の所です。みなさまのご参加をお待ちしています。

実施日：12月17日（水） 雨天中止

場 所：皇居東御苑

集 合：東京駅丸の内北口改札口前 10時集合

解 散：大手町駅 14時30分頃

コース：東京駅---大手門---本丸休憩所---二の丸  
雑木林---大手門---大手町---大手町駅

講 師：田中徳久氏 当館館長

対 象：オープン（どなたでも） 大人20名

参加費：会員500円 非会員700円

申込み：友の会のWEBフォームで12月3日  
（水）までにお申込み下さい。

メールアドレスがない方は11月25日～11月29日  
の19～21時まで電話でお申込み下さい。

電話申込み先：山田 080-3394-5101

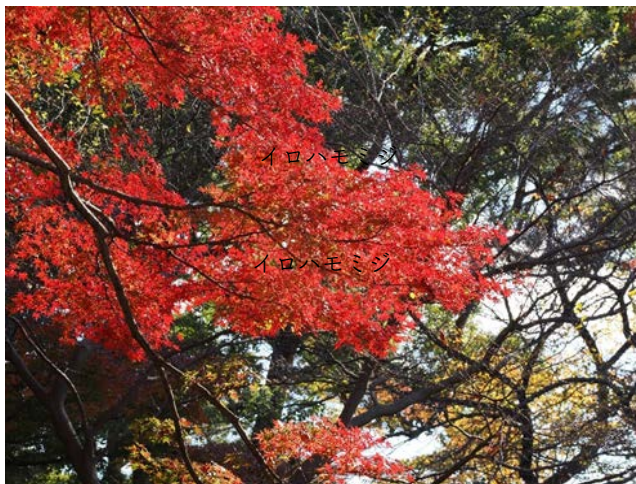
当日連絡先：同上

佐竹 090-2329-1324

※詳細は後日メール等でお知らせします。



カモメギク（キクタニギク／アワコガネギク）



イロハモミジ

## ◆ 生物間共生講演会 第14回

### 「植物と土をつなぐ菌類Ⅱ：生きている化石 アーバスキュラー菌根菌について」

日 時：11月29日（土）

場 所：博物館一階講義室

講演者：阿部淳一ピーター氏（筑波大学助教）

申込み：なるべく友の会 WEB フォームで。

締切り：11月15日

参加費：1200円／人（会員外1600円）

連絡先：c.akahori@gmail.com

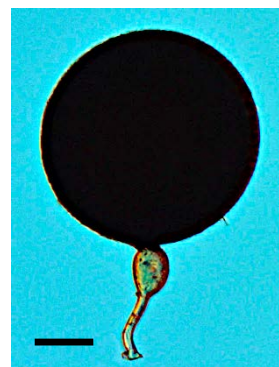
080-1088-9269（菌事勉強会：赤堀）

「植物と土をつなぐ菌類」の齋藤先生のご講演に  
続き第2回目では、生きている化石とも呼ばれるア  
ーバスキュラー菌根菌の分類や生態についてお話し  
したいと考えています。

アーバスキュラー菌根は、高等陸上植物のおよそ  
7割に観察される菌根で、これを形成する菌根菌は  
グロムス亜門に属し、菌類界において珍しく腐生生  
生活を放棄し、絶対寄生性を獲得した特殊な分類群で  
す。さらに近年の研究により、アーバスキュラー菌  
根菌はグロムス亜門だけでなく、ケカビ亜門にも含  
まれていることが明らかになっています。

現在、グロムス亜門では約370種が記載されてい  
ますが、その中で唯一、<sup>ゲオシフォン</sup> <sup>ピリフォーミス</sup> *Geosiphon pyriformis*のみ  
がアーバスキュラー菌根を形成しない種として知ら  
れています。この種は体内に二酸化炭素を固定する  
藍藻と共生し、形態的にも他のグロムス亜門の種と  
容易に区別されます。

この講演では、分類学的形態形質が比較的少な  
く、有性生殖の有無も不明な点が多い、グロムス亜  
門について興味を持っていただくように紹介したい  
と思います。



*Racocetra gregria* の孢子  
スケールバー：100 μm

海岸砂丘で生息するグロムス亜門1種の孢子

## ◆よろずスタジオ

### 「イルカ・クジラの形入門」

体のつくりをパズルで考えてみよう

実施日：11月23日（日）13：00～15：00

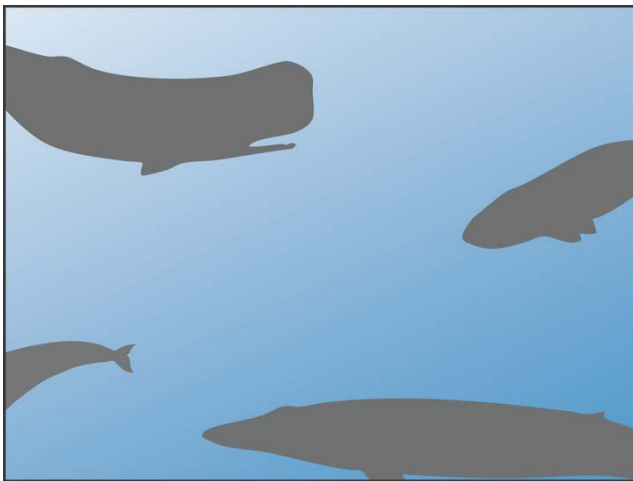
場 所：東側講義室

対 象：子供（当日の来館者）

申 込：不要／オープン

参加費：無料

協 力：西村双葉学芸員



## ◆地質観察会「箱根火山前期中央火口丘溶岩と地形の観察」

※ 2024年6月1日に予定していましたが中止になりましたので、再度計画しました。

日 時：2025年12月13日（土）10:00～16:00

集 合：10:00 箱根登山バス「六道地藏」バス停  
（小田原方面行：精進池側）付近

解 散：15:30 前後 畑宿（参加希望者への返信時に再度連絡します）

講 師：当館学芸員 山下浩之氏、西澤文勝氏

対 象：友の会会員（小学生は保護者同伴）

募 集：20名（定員を超えた場合は抽選）

費 用：保険代 50円＋資料代 50円＝100円（観察会当日、受付時に徴収します）

備 考：マスクについては各自のご判断でお願いいたします。

コース：精進池→元箱根石仏群→芦之湯→（昼食・トイレ）→飛竜の滝→畑宿

服 装：長袖、長ズボン、はきなれた靴、防寒具、雨具

持 物：飲み物、弁当、筆記用具

申込方法：往復ハガキもしくは講座申込 Web フォームにて参加申し込みをしてください。

記載事項：行事名・氏名・性別・年齢・会員番号・郵便番号と住所・電話番号・メールアドレス

申込先：〒250-0031

神奈川県小田原市入生田499

神奈川県立生命の星・地球博物館友の会  
地学観察会担当宛

申込締切：11月25日（火）必着でお願いします。

※状況によっては中止も考えられますので、ご承知おきください。

問合先：生命の星・地球博物館友の会地学グループ

担当者：谷 圭司 電話 090-2150-7187



前期中央火口丘溶岩が作り出す飛竜の滝

## ◆友の会地学グループ 行事変更案内 地話懇話会日程変更のお知らせ

2026年1月24日（土）に予定しました地話懇話会「こんなところに行って、こんなところを見てきた（仮題）」話題提供者：地学グループ会員を下記のように変更します。

○地話懇話会「街角地質学～日本の近代化を支えた石材」

日 時：2026年1月24日（土）

場 所：博物館西側講義室

講 師：西本昌司氏（愛知大学）

対 象：どなたでも

申込み：不要

○地話懇話会特別バージョン「街中石材散歩 at 東京」

日 時：2026年1月25日（日）

場 所：東京駅周辺（雨天中止）

講師：西本昌司氏（愛知大学）、  
丹治雄一氏（神奈川県立歴史博物館）  
対象：友の会会員  
申込み：必要（詳細は次号でご案内します）

◆ 第145回サロン・ド・小田原  
「トンボやゲンゴロウなどの水生昆虫の危機  
ネオニコチノイド系農薬と地球沸騰の影響」

話題提供：荏部治紀 氏（当館学芸員）  
講演日時：2026年1月17日（土） 14:00~15:30  
受付は13:40から  
場所：生命の星・地球博物館 西側講義室  
定員：45名 先着順 事前申込みはしない。  
オープンで一般も可。  
参加費：無料

内容紹介

身近に見られたトンボやゲンゴロウなどの水生昆虫が激減しています。なぜ減ったのか？を探究した結果、近年切り替わった新たな農薬（ネオニコチノイド系農薬）が彼らに大きな影響を与えていることがわかってきました。

また、この夏も異常な高温が続く酷暑に悩まされていますが、クーラーのない自然界では、北方系の種の衰退、干ばつの影響など、気候変動に伴う急激な温暖化が水生昆虫の新たな危機要因となってきました。

今回は、国内の水生昆虫の危機的な現状と、最近の研究で明らかになってきた農薬、温暖化などの危機要因を紹介します。



アキアカネ

友の会主催行事の参加申込みについて

- ◆行事案内に申込み方法が指定されていない場合、往復はがきに必要事項を記入して、友の会事務局までお送りください。
- ◆必事事項：行事名／開催日／参加者全員の氏名・年齢（学年）／会員番号／代表者の住所・電話番号／指定事項
- ◆行事案内に申込み方法が指定されている場合は指定された方法（メール・電話等）にてお申し込みください。
- ◆現在、一部の講座でWEBフォームによる申込受付を行っています。以下のQRコード又はURLよりアクセスして、申込をしてください。
- ◆WEBフォームによる申込は、下記QRコードまたはURLからお願いします。  
URL：<https://forms.gle/q2u4VAuVp7r8cc4y7>



注意！

- 参加費は友の会会員1名分の金額で、内訳は資料代、傷害保険料です。それ以外のものは特記事項に記載があります。
- オープンの行事は会員以外の方も参加できます（参加費が会員とは異なる場合があります）。
- 小学生以下の参加は保護者同伴が原則です。
- チラシの発行されない行事もありますので、直接＜連絡先＞へお問い合わせください。
- 持ち物など詳細はメール・返信はがきに記載されます。

次号は、2025年12月15日発行予定です。

発行：神奈川県立生命の星・地球博物館友の会  
Vol.29、No.2、通巻129号 2025.9.15 発行  
編集：友の会広報部  
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499  
TEL：0465-21-1515 FAX：0465-23-8846  
E-mail：kpmtomo@ybb.ne.jp  
Blog：http://blog.livedoor.jp/kpmtomo  
Twitter：@kpmtomo